



窪川から松葉川温泉に行く途中、四万十川の右手に広がる33世帯の暮らす集落。県道から上が住居と菜園で、下は田んぼ。8月の風を受けて、主にヒノヒカリの稲葉が心地よくウエーブしている。田んぼの下は四万十川。川には沈下橋が。現在は役目を終えた橋が、静かに昔の往来の跡を忍ばせている。この沈下橋は、昭和10年に造られたもので、橋長61m、現存する沈下橋では最も古く、国の登録有形文化財に指定されている。平成8年、沈下橋のすぐ下流に抜水橋が出来たため、今は風情と景観に役割を変えている。「橋が出来るまでは渡し舟だった」と懐かしんで話をしてもらった。こちらからあちらまで針金を渡し、竿の代わりにその針金を手繰って渡ったそうだ。

椿姫様の哀話を聞いた後、お堂へ行ってみた。椿姫様が、今わの際に「一斗俵で祀ってほしい」といっていた。そう言い残したので、この地にお堂があるという。お堂は小さいが、大樹があった。銀杏には大木が多いが、この銀杏も負けてはいない。直径を計り計算してみると幹回

り3.2mと出た。探すと他にも大木があった。氏神様の石段の側の椎、銀杏が3.2mだったから4m以上と推測される。



お米は4斗で1俵。集落名は「一斗俵」。かまどから上る煙が細く、あまり裕福でないと思っただ殿様が1斗を以て1俵としてくれた説と、その昔この地を拓いた池田という人物が初めて取れた米を献上するも、4斗俵にいれる程の収量がなく、1斗を俵詰めした故事が由来という説がある。

猛暑が続いている今年の夏。沈下橋にロープを結び、身を川に浮かせてみたいと感じた一斗俵。この地に帰着し、地域開発や医業に尽くした野村成満氏の家訓にも『労をいとふな、業に励むべし』とある。夏は暑いもの、労をいといません。沈下橋をはさんで向い側は、午後には影ができる。川風に涼を求めるのも一興だ。

町のうごき

6月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	9,187	- 10	男 1	6	9	14
女	10,299	- 6	女 6	10	14	16
計	19,486	- 16	計 7	16	23	30
世帯数	8,810	5	6月中の届出)			

四万十川の水質状況

	適正值 (mg/L)	6月9日
リン酸	5.0	測定値以下
硝酸	0.5	0.512
アンモニウム	5.0	0.097
アニオン活性剤	1.0	0.500
化学的酸素消費量	10.0	測定値以下

四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部